

もやもや病について

脳神経外科部長 吉田賢作

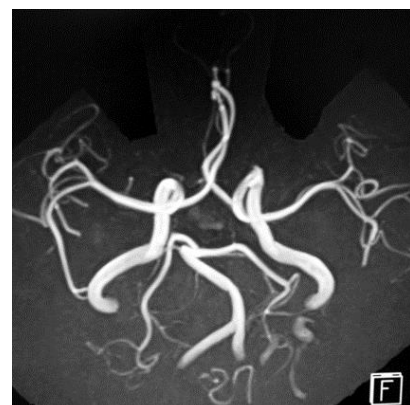
【もやもや病とは？】

- もやもや病は脳に栄養を送る太い動脈（内頸動脈）が狭くなり、不足した血液を補うように細い血管が発達する病気です。
- この発達した血管が『もやもや』した血管のように見えることから『もやもや病』と名前がつけられました。
- 原因は分かっておりません。
- 遺伝性は 10%程度と言われております。
- アジア系人種に多い病気で、年間の発症率は 0.35/10 万人、やや女性に多く、5~10 歳、30~50 歳をピークとする 2 つの年齢層に多いことが知られています。



【症状】

- 子供の多くは、頭痛、失神、脱力、^{けいれん}痙攣発作などの症状があります。
- 熱いうどんを食べる時に<フーフ>したり、笛を吹いたり、かけっこをした時や、過呼吸になると、血液中の二酸化炭素の濃度が低くなり、血管が狭くなることで
脳梗塞のような症状（^{のうきよ}脳虚^{けつしょうじょう}血症状）が出ます。
- 大人は、約半数で突然の頭痛、意識障害、麻痺などが症状である。



図：頭部 MRA 画像（左：もやもや病の血管 右：正常な血管）

白矢印は血管狭窄しモヤモヤ血管を認める。正常な血管と比べて太い血管の描出が悪いことが分かります。

【検査】

- もやもや血管の診断は頭部 MRI 検査で頭の中の血管を撮影し診断します。
- 治療方針を決めるためには、脳血流検査や血管造影検査など、より精密な検査が必要となります。

【治療】

- 血管が細くなることにより、少なくなった血流を補うための手術が行われます。
- その代表として、頭皮を栄養とする血管と頭の中の血管とをつなぐ手術（吻合術）です。
- 出血した場合には、緊急手術が必要となることがあり、血液を脳内から摘出する手術（外科治療）が行われます。



図：頭部 MRA 画像 吻合術施行後（▲：浅側頭動脈、△：中大脳動脈）

【生活指導面】



- もやもや病の症状は、過呼吸による脳虚血症状による場合が多いため、熱い食事（麺類やスープなど）、激しい運動、笛などの楽器吹奏、風船をふくらませることなどは控えるようにしてください。
- 幼小児では激しく泣くと脳虚血症状を誘発する場合がありますため、避けるようにすることが望ましいです。

【支援】

- もやもや病は、難病医療費助成制度の対象疾病に該当します。その診断のためには指定医の診察が必要となります。当院脳神経外科は、指定医です。お気軽にご相談ください。